

広報

きたはりま119

<http://www.kitaharima119.net>

災害のない明るいまちづくり



vol.4

2014 SPRING
北はりま消防組合



平成25年中 火災・救急・救助の概要

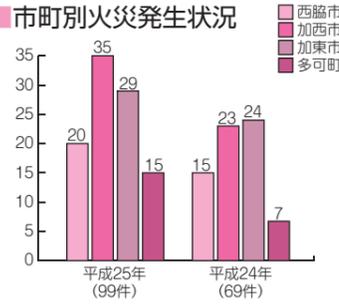
火災発生状況

- 火災発生件数99件（30件増加しました。）
（西脇市20件、加西市35件、加東市29件、多可町15件）
- 死者2名・負傷者8名

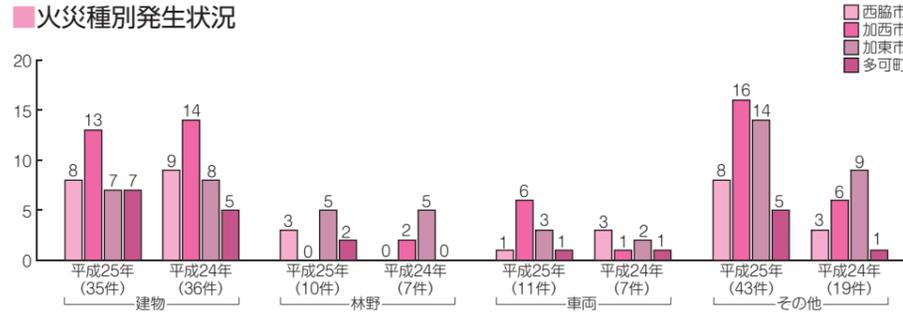


前年比較は、西脇市で5件、加西市で12件、加東市で5件、多可町で8件増加しました。
火災種別では、建物火災35件、林野火災10件、車両火災11件、その他火災が43件発生しました。
前年比較は、建物火災1件、林野火災3件、車両火災は4件、その他火災が24件増加しました。

市町別火災発生状況



火災種別発生状況



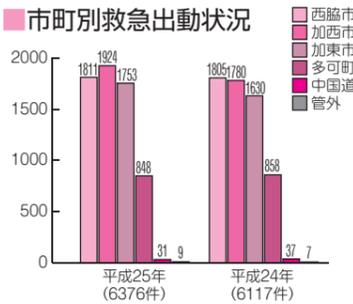
救急発生状況

- 救急出動件数6,376件（259件増加しました。）
（西脇市1,811件、加西市1,924件、加東市1,753件、多可町848件、中国道31件、管外9件）

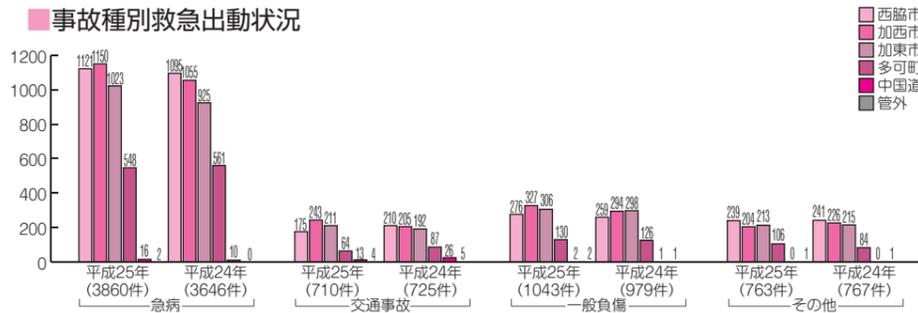


前年比較は、西脇市6件増加、加西市144件増加、加東市123件増加、多可町10件減少、中国道6件減少、管外2件増加しました。
事故種別で圧倒的に多いのは急病（3,860件）で、続いて一般負傷（1,043件）、交通事故（710件）の順となっています。

市町別救急出動状況



事故種別救急出動状況



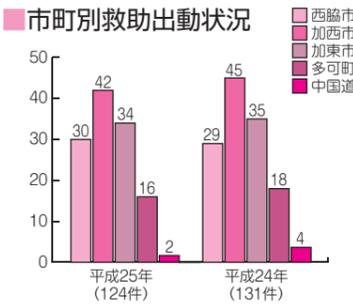
救助発生状況

- 救助出動件数124件（7件減少しました。）
（西脇市30件、加西市42件、加東市34件、多可町16件、中国道2件）

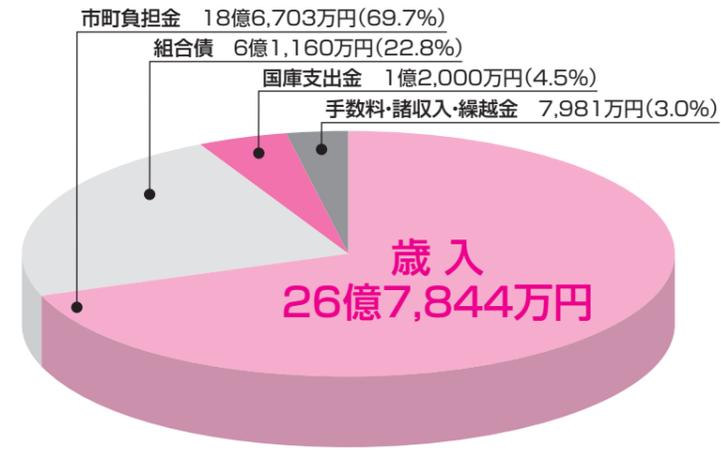
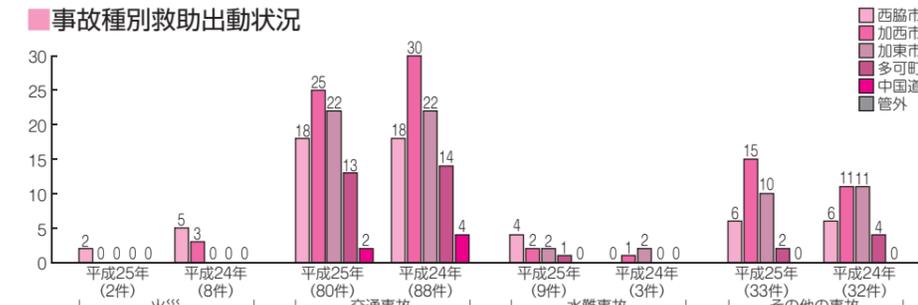


前年比較は、西脇市1件増加、加西市3件減少、加東市1件減少、多可町2件減少、中国道2件減少しました。
救助出動は交通事故が8件、火災が6件減少し、水難が6件、その他が1件増加しました。

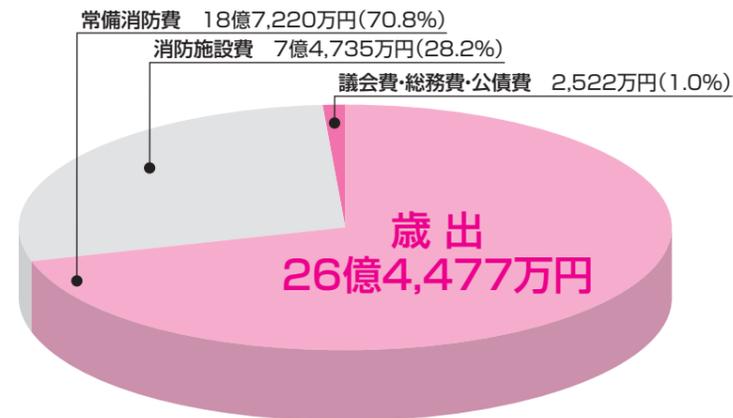
市町別救助出動状況



事故種別救助出動状況



市町負担金	組合を構成する市町からの負担金	市町負担金内訳
組合債	消防車両・消防施設整備のための借入金	西脇市 4億1,946万円
手数料・諸収入	消防検査等の手数料・その他の収入	加西市 5億8,347万円
国庫支出金	組合の事業に対する補助金	加東市 5億7,414万円
繰越金	前年度の繰越金	多可町 2億8,996万円



常備消防費	消防業務に係る費用（人件費含む）	議会費・総務費・公債費内訳
消防施設費	消防車両・消防施設の整備費用	議会費 28万円
議会費	組合議会の運営活動費用	総務費 2,421万円
総務費	組合全体の事務管理費用	公債費 73万円
公債費	借入金の返済費用	

主な事業



指令センター完成イメージ図 消防通信指令施設整備事業 6億4,779万円
山上に完成したアンテナ塔 老朽化した消防車両等の更新整備事業 9,910万円

お知らせ

入札参加資格審査の登録申請について

平成25年度から北はりま消防組合と契約行為を行う場合は、登録申請が必要となりました。
申請要領等については、ホームページに掲載していますのでご確認ください。

（受付期間：平成25年11月1日～平成26年3月31日）

お問い合わせ 消防部企画財政課 ☎0795(48)3250



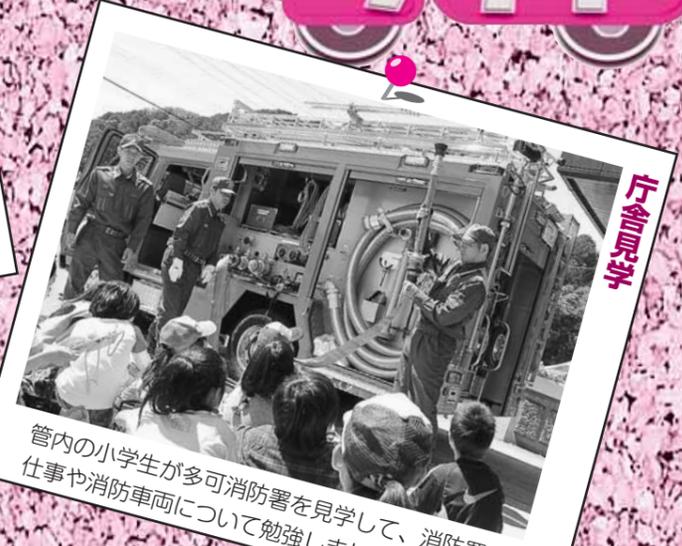
救急想定実戦訓練
西協市生涯学習センターで、各消防署から救急隊が集い、実戦さながらの訓練を実施し、救急隊のスキルアップに繋がる訓練となりました。



学校・自主防災組織合同訓練
災害救出訓練の見学や消火訓練、煙体験、天ぷら油火災消火訓練など熱心に取り組まれ、防災意識の高揚を図ることができました。



トライやるウィーク
各署で中学生を受け入れ、職員といっしょに消防訓練や救急講習など様々な体験をして、人を助けることの難しさや仲間と協力することの大切さを学びました。



庁舎見学
管内の小学生が多可消防署を見学して、消防署の仕事や消防車両について勉強しました。



住宅用火災警報器等の配布事業
西協市芳田地区で「住宅防火・防災キャンペーン」が実施され、補助事業により住宅用火災警報器等が配布されました。



資器材取扱い訓練
多可消防署に新しく配備された資器材で、迅速・的確な人命救助を行うために、取扱い訓練を繰り返し実施しました。



青野ヶ原自衛隊との合同訓練
大規模災害が発生した時に、お互いに組織体制を理解し、基本的な共通認識を深め、災害時の円滑な活動に繋げていくことを目的に訓練を実施しました。



自衛消防競技大会
秋の火災予防運動に伴う行事の一環として、防火(安全)協会加入事業所等による自衛消防競技大会を各消防署で開催しました。

2013 北はりま消防本部

消防団との合同訓練
地元消防団との連携を深め、大規模火災などの災害に際し、円滑で効果的な対応が図られるよう、協力体制を確立することを目的に合同訓練を実施しました。



救急医療週間啓発活動
救急医療週間行事の一環として、救急業務に対する住民の正しい理解と認識を深めるため、イオンモール加西北条で広報イベントを実施し、神戸市消防音楽隊による演奏の協力を得て、ふるさと加西観光大使の「ねっぴー」といっしょに啓発活動を行いました。

防火管理者講習
消防法で定められた防火管理を推進するために必要な資格を取得するための講習を開催しました。

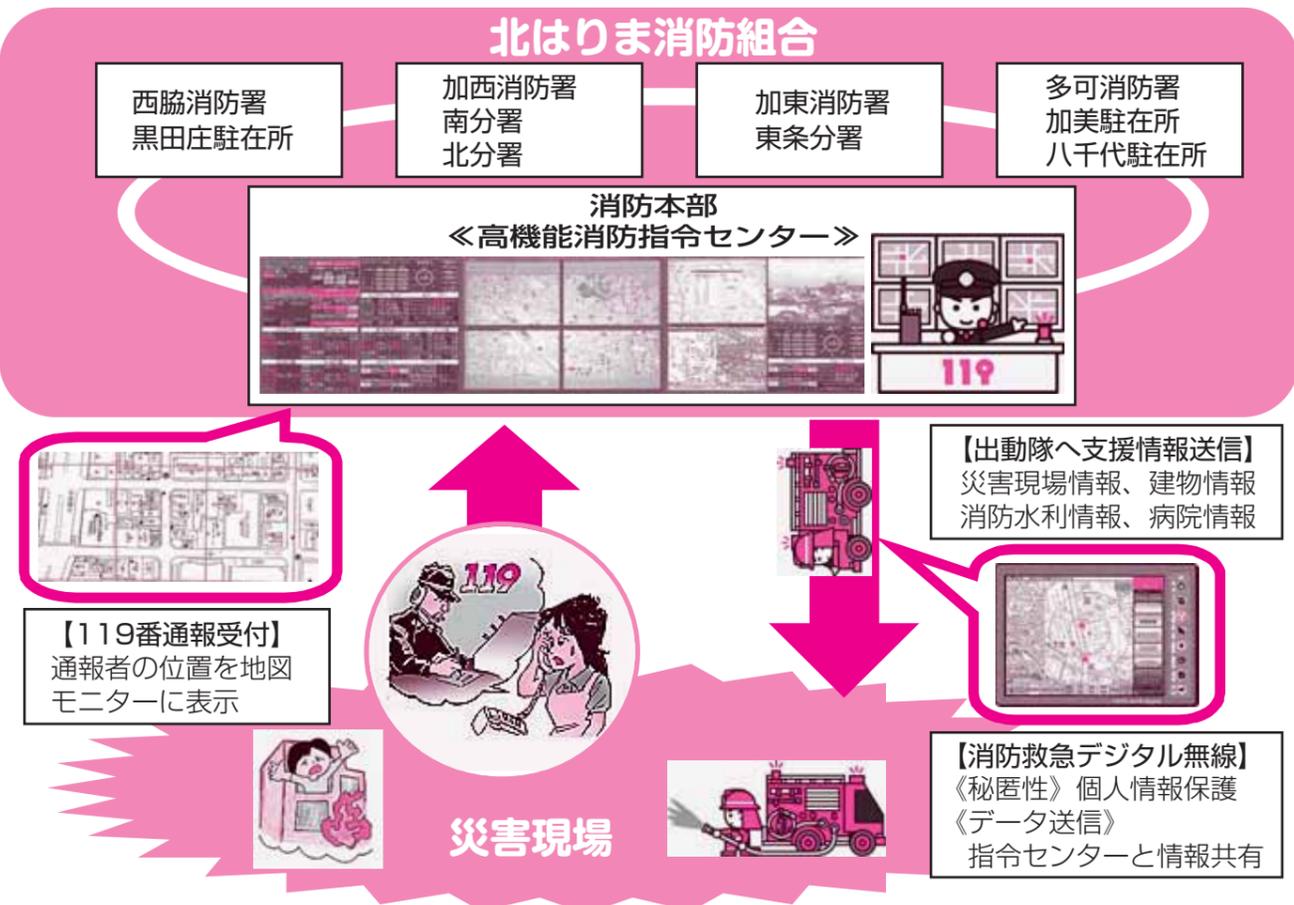


防災ヘリ合同水難救助訓練
西協市上比延町河川で、兵庫県消防防災ヘリと合同で水難救助訓練を実施し、参加した職員は、救助技術向上を目指し真剣に取り組みました。



高機能消防指令センターと消防救急デジタル無線

現在、指令業務の統合に向け「高機能消防指令センター」と「消防救急デジタル無線」の工事が順調に進んでいます。完成後のイメージは、次のとおりです。



春の火災予防運動

実施期間 平成26年3月1日(土)から3月7日(金)
全国統一標語「消すまでは 心の警報 ONのまま」

3月1日(土)から7日(金)までの7日間にわたって、平成26年春季火災予防運動が実施されます。週間中は、住宅火災による死者の発生防止対策の要点をまとめた、住宅防火いのちを守る7つのポイント「3つの習慣・4つの対策」について積極的な広報を行い、一人ひとりが防火の重要性を自覚し、日常生活での防火を実践することにより、火災による死傷者や財産の損失を防げるよう取り組みます。

3つの習慣

- 寝たばこは絶対にしない。
- ストーブは燃えやすいものから離れた場所で使用する。
- ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具・衣類、カーテンからの火災を防ぐために防火製品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制を作る。

ガソリン携行缶の取扱いに注意!

ガソリンは、マイナス40℃でも気化し、小さな火源でも引火して爆発的に燃焼する物質です。気化したガソリンは容器内で膨張し、圧力が高くなっている場合がありますので、取扱いには十分注意してください。

また、可燃性蒸気は、空気より重いため、地面を伝って離れた場所にある火源から引火する恐れがあります。

住宅用火災警報器の維持管理

「いざ」というときにきちんと作動するように、日頃からお手入れや点検をしましょう!

- ★電池交換を忘れずに!
(自動的に警報音が鳴るタイプと本体に記載されているタイプがあります。)
- ★定期的な作動確認をしましょう!!
(本体にぶらさがった紐を引く、またはボタンを押す。)
- ★定期的な清掃をしましょう。
(中性洗剤を浸して固く絞った布で軽くふきましょう。)

知って得する防火の知識

あなたの家は大丈夫!

- 【放火による火災を防ぐ!】
 - ★家の周りに燃えやすいものを置かない。
 - ★ゴミは決められた日に出す。
- 【たばこ火災を防ぐ!】
 - ★寝たばこは、絶対にしない。
 - ★灰皿は置く場所を決めて、周囲は整理整頓しましょう。
- 【天ぷら油火災を防ぐ!】
 - ★コンロのそばを離れる時は、必ず火を消しましょう。
 - ★周囲はいつも整理整頓、美しく!
- 【電気火災を防ぐ!】
 - ★タコ足配線はしない。
 - ★コードを束ねたまま使用しない。

「兵庫県ドクターヘリ運航開始」(Doctor Heli)

兵庫県立加古川医療センター(加古川市神野町)を基地病院として、兵庫県によるドクターヘリ事業が平成25年11月30日から開始されました。



ドクターヘリとは!!

重症度・緊急度の高い救急患者の救命率向上と後遺症の軽減を図るため、ヘリコプターの機動力を活用した新しい救急体制で、救急医療に必要な医療機器や医薬品等を搭載したヘリコプターに医師と看護師が搭乗し、救急患者のもとに向かい、医師により早期に救命治療を開始することができます。

住民の皆さんにお願い!!

臨時離着陸場でのドクターヘリへの離着陸には、消防職員が出動し周囲の安全確保を行います。この現場に居合わせた場合、消防職員の指示に従っていただき、速やかに安全な場所に退避してください。ドクターヘリには近寄らないでください。



新人職員各署に配属

西脇消防署
山本 佑気



消防の知識・技術の基礎を学び、体力的にも厳しい半年間でしたが、かけがえない同期とともに乗り越えることができました。今後少しでも多くのことを学び、住民の皆様方に安心していただけるよう日々精進していきます。

加西消防署
古家 直樹



初任教育では消防士としての基礎を学びました。また、厳しい訓練の中で仲間と支えあうことを通じてチームワークの大切さを実感しました。これから多くの経験をして、住民の方々に頼りにされる消防士になります。

西脇消防署
山下 遼



消防士としての基礎を学び、仲間の心強さ・命の大切さを学ぶことができた半年間でした。これから市民の方々の安全な暮らしを守るため、日々努力し、一人前の消防士として尽力していきます。

加西消防署
藤尾 圭



消防士としての基礎を学び、厳しい訓練を乗り越え、大きく成長した半年間でした。また、かけがえない仲間とも出会いました。消防学校で学んだ知識・技術を活かし、早く一人前の消防士になるよう、努力いたします。

加東消防署
谷口 正純



過酷な訓練の毎日でしたが、仲間たちと喜びや悔しさを分かち合い、そして支え合い、体力・精神力を養うことができました。この経験を糧に、地域の方々に信頼される消防士になるよう、精進していきます。

西脇消防署
谷位 大樹



厳しい訓練も、仲間と共に乗り越え多くのことを学んだ半年間でした。消防学校での経験は、非常に貴重なものとなりました。初心を忘れずに、今後も精進し一日も早く地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。

加西消防署
熊代 巧



消防の基礎を学び、仲間の心強さ・命の尊さ、様々なことを考え、成長することができました。消防学校で学んだことを活かし早く住民の方々の信頼を得て、災害の第一線で正確な活動ができるよう日々精進していきます。

加東消防署
川居 直人



たくさんの厳しい訓練の中で、消防職員の基礎を養ってきました。一緒に訓練を耐え抜いてきた仲間を大切に、初心の気持ちを忘れることなく、頼られる消防職員になれるよう日々精進していきます。



平成25年4月に採用した新人職員8名が消防学校での半年間の研修を終え、成長した姿で帰ってきました。10月から北はりまの各消防署へ配属していますので、紹介します。

消防学校で学んだこと、これからの意気込みをインタビューしてみました。

感謝状の贈呈を行いました



西脇市内で発生した建物火災での功績に対し、感謝状を贈呈しました。

(感謝状受領者)

村上 昌紘様
村井さおり様
村上 英隆様

加西市内で発生した救急事案での、的確な救命処置の功績に対し、感謝状を贈呈しました。

(感謝状受領者)

池田 文胤様
岸井さとみ様
佐々木真美様



今年度から広報「きたはりま 一九」の編集を担当することになりました。

この広報誌で最新の消防、防炎情報を発信し、多くの方々にご理解いただけるよう、より良い紙面づくりを目指してまいります。

今後ともよろしくお願ひします。

編集後記

梅野

加西市内で軟式野球の試合中、打者が突然倒れ、守備にっていた選手の的確な救命処置の功績に対し、感謝状を贈呈しました。

